



日本音楽教育学会ニュースレター 第68号

目 次

1 学会からのお知らせ

1. 日本音楽教育学会第48回大会のご案内(第1報) 2
2. 第8回夏季ワークショップ in 野沢温泉(第2報) 4

2 委員会からのお知らせ

1. 学会賞審査委員会からの報告 4
2. 編集委員会からのお知らせ 5
3. 「会長・理事選挙」投票はお済みですか? 5

3 音楽教育の窓

1. 〈連載〉音楽・教育・学校(12)
赤ちゃんの声の「響き」に導かれて 志村 洋子 6
2. IMS Tokyo 2017 国際音楽学会報告 小塩さとみ 7
3. JUSTEC ハワイ大会および京都大会予告 高見 仁志 7
4. 平成29年度に開催される音楽教育に関わる学会研究会等の情報 8

4 会員の声

1. 心から楽しめる、身に付く音楽科教育を目指して 後藤 俊哉 9
2. 「新入会員の声」子どもや学生との楽しい音楽の時間をつくりたい 細川 匡美 10
3. 「新入会員の声」日本音楽教育学会に入会して 大津真樹子 10
4. 会員の新刊・近刊等紹介 11

5 報告

1. 平成29年度第1回常任理事会 12
2. 平成29年度第1回理事会 13

6 事務局より 16

[編集後記]

1 学会からのお知らせ

1 日本音楽教育学会第48回大会のご案内(第1報)

大会実行委員長 新山王 政和

第48回全国大会は、10月21日(土)・22日(日)の2日間、愛知教育大学において開催します。この大会の目玉はポスター発表の新設です。これに伴い院生フォーラムは、より自由度の高いものにする予定です。また、次期学習指導要領が示された直後の大会として、シンポジウムでは現実的な目線から音楽科教育と教員養成にアプローチしたいと考えています。詳細は第2報(8月下旬)でご案内します。なお、この時期は数多くの催事が重なる上、全日本吹奏楽コンクール全国大会が同じ日程で開催されますので、アクセスを勘案しながら早めに宿を手配して下さい。ホテルは金山駅や名古屋駅周辺が便利ですが、大学行きバスが発着する知立駅や刈谷駅周辺にも数軒あります。また学内には無料で駐車できますので、お車での来学も可能です。

日程表

10月20日(金) 理事会・常任理事会・編集委員会

10月21日(土)

9:00	9:30		14:45	17:15	17:30	18:30	20:00
受付・ 打合せ	研究発表		プロジェクト研究 共同企画	実行委員会企画 講演・シンポジウム		総会	懇親会
	第一共通棟			講堂		第一福利施設	
	院生フォーラム						

10月22日(日)

9:00		13:50	15:20	15:30	17:00
受付・ 打合せ	研究発表	ポスター発表	プロジェクト研究 共同企画	共同企画	
	第一共通棟				

実行委員会企画：音楽を教える人材とは？これからの音楽科教員に求められること

昨年の大会では、大会テーマである「ミュージキング：原点からの音楽教育」の下、「プロフェッショナルな音楽教育者であること(講演)」や「音楽と音楽教育の原点から音楽科の意義を再考する(シンポジウム)」などが設定され、「音楽教育で何を教えるべきなのか」について考察しました。これに続く愛知大会では現実的対応へ視点を下ろして「音楽教育を担う人材をどのように育てていくのか？」をテーマに掲げ、次期学習指導要領が示された直後の大会として、音楽科授業や学校内音楽活動の中核を担う教員の養成について議論を深めるとともに、フロアも交えて情報交換と情報共有を図る場にします。

講演：今、学生に何を身に付けさせるのか？今後の教員に求められる資質

講師：後藤ひとみ 愛知教育大学学長

北海道教育大学教育学部と愛知教育大学大学院で学んだ後、公立小学校の養護教諭となる。同朋大学社会福祉学部、北海道教育大学の教員を務めた後、2002年に愛知教育大学へ赴任。2014年より愛知教育大学学長。養護教育学を専門とし、養護教諭の実践と研究を繋ぐ中から「養護教諭の専門性を支える学問の構築」を目指している。日本養護教諭教育学会理事、日本健康相談活動学会理事、一般社団法人日本学校保健学会代議員、一般社団法人国立大学協会理事、東海テレビ番組審議会委員などを務めている。医学博士(名古屋大学)、教育学修士(愛知教育大学)。

シンポジウム：音楽を教える人材とは？これからの音楽科教員に求められること

シンポジスト：津田正之(国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官、元琉球大学准教授)

小川容子（日本音楽教育学会会長，岡山大学大学院教授）

山内雅子（上野学園大学特任教授，元東京都公立小学校副校長）

コーディネーター：山下薫子（東京藝術大学教授）

企画：新山王政和（愛知教育大学教授）

津田氏には教員養成に携わる経験にもとづいて現在日本の音楽科教育を束ねておられる立場から，小川氏には日本音楽教育学会の会長としてだけでなく自ら教員養成を担っておられる立場からご提言をいただきます。日本音楽の教育に邁進しておられる山内氏には公立学校教員の永いキャリアを有する立場と教員養成の両方の立場からご提言をいただきます。そして，教員養成に関与するとともに日本の音楽教育の中核を担っておられる山下氏には積極的にご発言いただくとともにシンポジウムの取り纏めをお願いしております。

院生フォーラムについて（申込先は8月下旬の第2報および学会ホームページでご案内します）

「研究発表のポスター発表」と異なり，申込は当日まで可能です。まだ会員でない院生さんは，9月末までに入会手続を済ませて下さい。既に会員資格をお持ちの方は当日の飛び込み発表も受け入れます。

愛知教育大学（愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1）へのアクセス

① 自動車：東名高速「三好IC」or 伊勢湾岸自動車道「豊田南IC」→「愛教大前交差点」→「正門」

② 名鉄名古屋駅→知立駅→バス「愛知教育大前」

特急 20分（指定席車のみミューチケット指定券が必要），急行 25分，普通 50分

[バス：知立駅→愛知教育大前 7:28, 7:35, 7:45, 7:58, 8:12, 8:22, 8:35, 9:05]

③ JR名古屋駅→JR刈谷駅→バス「愛知教育大前」

[バス：JR刈谷駅→愛知教育大前 7:47, 8:17, 9:05] *便が少ない

④ 中部国際空港→知立 http://www.chitabus.co.jp/pdf_files/chiryuu_kariya.pdf

⑤ 各地⇄名古屋のバス https://www.bushikaku.net/price/aichi/_nagoya/

会場案内図（バス停⇄会場間は5分以内で移動可能です）

・第一共通棟（受付・発表会場・休憩室）

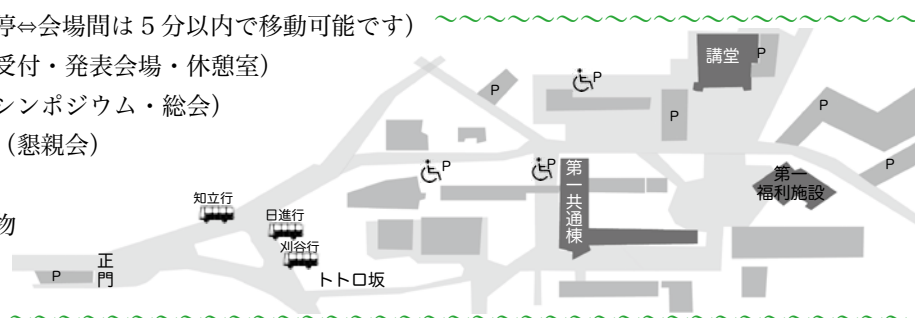
・講堂（講演・シンポジウム・総会）

・第一福利施設（懇親会）

■ パーキング

■ 使用しない建物

■ 道路



唱歌の情景5 《みかんの花咲く丘》

2 第8回夏季ワークショップ in 野沢温泉 (第2報)

野沢温泉村教育委員会と野沢温泉学園のご協力を得て、会員持ち寄り企画によるワークショップを行います。多数のご参加をお待ちしています。なお、参加は事前登録制です。7月15日(土)までにウェブサイトで専用フォームからお申込みください。

日 時：8月28日(月・プレ企画)、8月29日(火)、30日(水)

場 所：長野県下高井郡野沢温泉村(北陸新幹線 飯山駅よりバスで25分)

参加費：1,000円(会員) 懇親会 3,500円(夕食付) 昼食弁当1日につき650円(お茶付)

申込み：学会ホームページ (<http://日本音楽教育学会.com/>) > イベント案内 > セミナール & ワークショップ) のワークショップ申込専用フォームから

※ 切：7月15日(土)

宿 泊：野沢温泉観光協会オフィシャルウェブサイト (<http://nozawakanko.jp/>) > 野沢温泉のお宿 & お店情報) を通じて、各自お申込みください。

問合せ：日本音楽教育学会事務局(ニュースレター最終頁掲載のアドレス) にメールでお問い合わせください。件名は「第8回夏季ワークショップ」でお願いします。

日 程 (予定)：

	午 前		昼休み	午 後		夜
プレ企画 8月28日 (月)	(非公開) こども園でのプレワーク			13:15-14:30 子どもたち参加によるオペラ公演 《あまんじゃくとうりこひめ》 (こども園ホール/公開)	ゆったり愚へどうぞ 夕方の散歩も気持ちいい	
第1日目 8月29日 (火)	9:55-10:45 ワークショップ アフリカンリズム (中学校全学年/中学校体育館)	10:55-12:00 参加者の振り返り りと意見交換	昼食弁当 (公民館)	13:30-15:30 セミナー・ワークショップ 五線譜にかわる選択肢—「フィギュアノート」を知る (公民館)	17:00-19:00 懇親会(夕食有) アイルランド音楽 とダンス(体験) のゆうべ (おぼろ月夜の館)	
	または、28日の公演、プレワークの映像視聴 (公民館) おぼろ月夜の館の自由見学など			13:30-15:30 ラウンドテーブル 養成校における領域「表現」の授業を考える (公民館)		
第2日目 8月30日 (水)	9:40-10:25 ワークショップ 掛け合い歌であそぼう (小学校1年/小学校プレイルーム)	10:35-11:30 参加者の振り返り りと意見交換	昼食弁当 (公民館)	13:00-15:00 ワークショップ 音声分析勉強会 (公民館)		
	または、28日の公演、プレワークの映像視聴 (公民館) おぼろ月夜の館の自由見学など			13:00-15:00 ラウンドテーブル 学会誌に投稿しよう! その前に…… (公民館)		

後 援：野沢温泉村教育委員会 長野県音楽教育学会 長野県認定こども園協会

実行委員：有本真紀・石川眞佐江・市川恵・伊原小百合・今川恭子・加藤富美子・木村充子・桐原礼・小井塚ななえ・小佐川心子・権藤敦子・鹿倉由衣・長井覚子・早川倫子・村上康子

2 委員会からのお知らせ

1 学会賞審査委員会からの報告

学会賞審査委員会委員長 小川 容子

平成29年5月14日開催の学会賞審査委員会にて、以下のように、第5回学会賞の受賞者が2名が選ばれました。なお、授賞式は平成29年10月21日、日本音楽教育学会第48回大会(於 愛知教育大学)にて、とりおこなわれます。

◎ 第5回学会賞受賞者 檜下 達也 氏

授賞対象論文「戦後日本における教育用楽器の生産、普及、品質保証施策—文部・商工(通産)・大蔵各省と楽器産業界の動向を中心に—」(『音楽教育学』第45巻第2号)

選出理由：同論文は、戦後の器楽教育の成立過程について、豊富な資料を駆使し、複層的に現象を

とらえようとした歴史研究である。教育現場の実践記録や指導法の検討によって語られることが主流であった成立過程を、教育用楽器の確保、品質管理の問題に焦点化し、各省庁と楽器産業界の動向に着目するという視点は、これまで見られなかったものであり、評価に値する。音楽教育史研究の発展に資する論文であり、社会的価値を持つ研究として位置付けることができる。以上の理由により、第5回学会賞にふさわしいものとして選定した。

◎ 第5回学会賞受賞者 清水 稔 氏

授賞対象論文「学校教育で音楽をつくることの再認識——音楽は自己のイメージから生成しない——」
 (『音楽教育学』第46巻第2号)

選定理由: 同論文は、日本の音楽づくりや創作活動の意義を哲学的視点から丹念に考察した研究である。「自己」および「イメージ」とは何かを考える必要を導出し、創作の意義を問い直す論述には説得力がある。さらに、創作の範疇にとどまらず、広い意味での音楽科教育における教育と学習のあり方に発展する可能性を秘めている。実践的な課題の基盤となる研究であり、本学会の研究の方向性に対しても影響を与えうる有意義な研究として、位置付けることができる。以上の理由により、第5回学会賞にふさわしいものとして選定した。

2 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 有本 真紀

2月15日の投稿締切には、『音楽教育学』に5本(研究論文3, 論考1, 研究動向1), 『音楽教育実践ジャーナル』に9本(特集投稿7, 自由投稿2)の投稿があった。5月14日開催の第1回編集委員会では、その採否の決定を含め、以下の審議・報告を行った。

- (1) 『音楽教育学』への投稿の採否: 再査読となっていた研究論文4本のうち2本が掲載可、2本が不採択となった。また、新規投稿5本中、研究論文1本と論考1本が修正再査読、研究動向1本は修正の上再審議、研究論文2本が不採択となった。
- (2) 『音楽教育学』第47巻1号の編集進捗状況について確認した。
- (3) 『音楽教育実践ジャーナル』vol.15の構成案を協議した。
- (4) 『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』のJ-STAGEへの公開が開始された。順次公開を進める。

次回の投稿締切は、8月15日(火)必着です。

「投稿の手引き」をよくお読みになり、積極的に投稿していただきますよう、お願いいたします。なお、「第8回夏季ワークショップ in 野沢温泉」では、ラウンドテーブル「学会誌に投稿しよう! その前に…」が開かれます。学会誌に掲載された執筆者の方が、投稿の準備から掲載まで、編集委員会とのやりとりも含めてごつくばらんに語り、論文の構成方法、執筆上の注意、投稿前のチェックポイントなどについての情報交換を行います。詳細、お申し込みは、学会ウェブサイトをご覧ください。

3 「会長・理事選挙」投票はお済みですか?

第23期選挙管理委員会委員長 高橋 雅子

会員のみなさま、「第23期日本音楽教育学会会長・理事選挙」投票はお済みですか?

6月中旬に選挙関連書類が届いていることと思いますが、未だ投票を済ませていない方は、7月3日(月)消印有効となっておりますので、ぜひ投票していただきますようご協力よろしくお願いたします。この選挙は、今後の学会活動の中心的役割を担う会長・理事を選出する選挙です。みなさまの貴重な一票により、学会のさらなる発展のためにふさわしい会長・理事が選出されますよう期待しています。

3 音楽教育の窓

1 〈連載〉音楽・教育・学校 (12) 赤ちゃんの声の「響き」に導かれて

志村 洋子 (同志社大学赤ちゃん学研究センター)

「研究は人脈」という言葉を在職中は院生たちに折にふれて言っていた。これは、困ったときに何かを誰かに助けてもらう、恩恵を被ろう、という人脈ではない。芽生え始めた研究の種が育ち結実するまでに、多くの人の言葉に触発され、助けられているかを例えている。ここでは、自分がこれまで研究を継続することができた、発端のエピソードを書かせていただくことにした。

大学院生時代のことである。或る音楽教育の季刊誌上で、恩師が著名な小児科医師と「新生児期からの母子相互作用」について対談をされた。その場で、速記を任されて同席していた私に、小児科医は「あなた、声楽専攻の学生でしょ。赤ちゃんの発声が癖が無くてきれいな声だってこと知ってます？」と声をかけてくれた。赤ちゃんの声って綺麗な声なの？ 泣き声は「ギャーギャー」って聞こえるのに？ 癖が無いってどうゆうこと？ と思いながらの帰路、どんな発声方法なのかを調べたいという想いが強くわいてきた。ありがたいことに親友二人が赤ちゃんを産んだばかりだった。早速、それぞれのお宅にお邪魔して観察を始めたが、赤ちゃんの声のバリエーションの豊かさと、月齢を追った発声方法の変化範囲の広さに「歌うたい」はすっかり虜になってしまった。いやはや、泣くときの声は猛烈なエネルギーに満ちているのだが、ご機嫌な声の音色と実に様々な発声手法、特に3ヵ月齢位までのソット ヴォーチェの響きの多様さは何とも言えずチャーミングだった。そして、その声に応えようとする母親たちの音声表現と声の感情性の豊かさにも、驚かさされ、圧倒されたのである。

乳児音声は、前言語期の音声発達モデルの定番になっている分類 (Oller 1980) で、「Phonation stage (発声期) :1～2ヵ月齢・Goo stage (グー期) :3ヵ月齢」と呼ばれており、その後、「Canonical stage (規準喃語期) :7～10ヵ月齢」を経て、一般的に喃語と理解される「Variegated babbling stage (変化に富む喃語期) :11～12ヵ月齢」に至るまで、折にふれ子音変化、軟口蓋音や両唇音、破裂音の増加、反復の多少等が発達の指標となっており、可視化 (例えば、音声の音響分析) もされ、エビデンスと位置付けられている。しかし、言語獲得を前提としたものであり、声そのものの音色や響きが私たちに伝えている、「感情に関わる情報」についての分類は未だ十分なされていないわけではない。現在、日本でもこうした赤ちゃんの音声における感情に関する研究 (坂井 2016) も多くなり、新たな知見が蓄積され始めた。音声の音響分析がその役割の一端を担い、同じ言葉、同じ発声のように見えながらも微細な変化を捉え、表出された音声の音響特性を我々の聴覚が感じ取る情報と併せて示してくれるようになってきた。何よりも、その音声と言葉へと発達するだけのものではない、という視点が重要な意味を持っている。

赤ちゃんを取り巻く声の環境に関して、注視を使った実験では母親の「話しかけ」よりも「うたいかけ」により注視することが示され (Trehub 2003)、また、「コミュニケーション ミュージカリティ」 (Malloch & Trevarthen 2009) というキーワードが示すように、養育者との相互作用で生起するマルチモーダルなやりとりは、「音楽」の教育にも関わる可能性があることも明らかにされてきている。「声」と「音楽」が結ぶ赤ちゃんとの絆の研究は、これからが本番である。

2 IMS Tokyo 2017 国際音楽学会報告

小塩さとみ (宮城教育大学・非会員*)

3月19日から23日までの5日間、東京藝術大学を主会場として国際音楽学会 (IMS = International Musicological Society) の第20回大会が開催されました。主催は国際音楽学会と日本音楽学会と東京藝術大学の3団体で、日本音楽教育学会や東洋音楽学会など日本国内の音楽関連学会が後援しました。IMSの大会は5年毎に開催され、今大会がアジアで最初の大会でした。「Musicology: Theory and Practice, East and West (音楽学: 東西の理論と実践)」をテーマとして、300件を越える個人発表、徳丸吉彦氏と細川俊夫氏による2つの基調講演、合計10を越えるラウンドテーブルやスタディーグループセッション、「The 4 Rs」と題されたRILM/RISM/RIDIM/RIPMに関するセッションが行われました。音楽史研究、民族音楽学、音楽心理学、カルチュラル・スタディーズなど多方面にわたる研究成果が発表され、教育に関連した発表も多数ありました。研究対象となる音楽の種類や地域・時代も発表者の出身地・活動地も多岐にわたり、国際音楽学会という名前に相応しい充実した大会でした。日本に関連した研究発表も多く、特に近代・現代の日本と絡めた発表が多いことが印象的でした。東京楽所による雅楽の歓迎演奏会や、上野学園大学の協力による雅楽と声明に関する資料展示とレクチャーコンサートも開催され、日本音楽を世界に発信する大会にもなっていたと思います。詳しいスケジュールや発表要旨はIMS Tokyo 2017のウェブサイト (<http://ims2017-tokyo.org/>) で公開されています。

*広報委員会より補足:本学会の「音楽文献目録委員会」から音楽教育関係動向をまとめて提出、RILMセッションでの小塩氏の発表に含めていただきましたので、報告原稿を依頼しました。

3 JUSTEC ハワイ大会および京都大会予告

高見 仁志 (佛教大学)

日米教員養成協議会 (JUSTEC) は、1987年に日米20におよぶ大学の学部長達によって、教員養成や教師教育における研究を促進していくために設立されました。毎年、AACTE (全米教員養成大学連盟) のサポートを得ながら、日米交互に開催されています。今年のJUSTECは、ハワイ大学マノア校において、2017年9月14日(木)～2017年9月17日(日)に開催されます。



Image: University of Hawaii at Mānoa website

今回のテーマは、教師教育における専門性 Professional Development in Teacher Educationで、研究発表、基調講演、レセプションからワイキキ小学校の視察まで多彩なプログラムが予定されています。残念ながら、このレターが出るころには、発表に関するproposalはすでに締め切られていますが、こうした教員養成や教師教育に対する意識が、日本の音楽教育研究界にさらに浸透することを期待しご案内致します。また2018年度は、京都の佛教大学での開催となります。本年度に併せ来年度も、皆様お問い合わせの上ぜひご参加ください。



なお、2017年度の参加申込みは、支払いも含め2017年7月5日までに完了の予定です。詳しくは、<http://justec.tamagawa.ac.jp> をご覧ください。



平成 29 年度に開催される音楽教育に関わる学会研究会等の情報

学会・研究会名	開催期日	開催場所	URL
音楽学習学会 第 13 回研究発表大会	2017/ 8/ 5	埼玉大学	https://jsml.jp/home/
日本学校音楽教育実践学会 第 22 回全国大会	2017/8/19-20	聖徳大学	http://www.jassmep.jp/
全国大学音楽教育学会 第 33 回全国大会 (岐阜大会)	2017/8/24-26	グランヴェール岐山	http://www.nacome.com/
日本教育学会 第 76 回大会	2017//8/25-27	桜美林大学	http://www.jera76.jp/
日本教科教育学会 第 43 回全国大会	2017/9/9-10	北海道教育大学 (札幌校)	http://jcrda.jp/
日本音響学会 2017 年度秋季研究発表会	2017/9/25-27	愛媛大学城北キャンパス	http://www.asj.gr.jp/ annualmeeting/index.html
日本教師教育学会 第 27 回研究大会	2017/ 9/30- 10/1 (予定)	奈良教育大学	http://www.gakkai.ne.jp/ jsste/index.php?cID=1
日本民俗音楽学会第 31 回大会(宮島大会)	2017/10/7-8	宮島コーラルホテル	http://s-jfm.org
教育史学会 第 61 回大会	2017/10/7-8	岡山大学	http://kyouikushigakkai.jp/
日本教育大学協会平成 29 年度研究集会	2017/10/14	愛知教育大学	http://www.jaue.jp/index.html
全日本音楽教育研究会全国大会 (小・中・高・特別支援学校部会)	2017/11/1-2	浦添市てだこホール 他	http://www.jsme.net/
全日本音楽教育研究会全国大会(大学部会)	2017/11/1-2	沖縄県立芸術大学 首里金城キャンパス	http://www.jsme.net/
日本教育実践学会第 20 回大会	2017/11/25-26	佛教大学	https://www.jssep.jp/ms/
日本音楽知覚認知学会平成 27 年度秋季大会	2017/11/4-5	松山テルサ	http://jsmpc.org/
日本音楽学会 第 68 回大会	2017/10/28-29	京都教育大学	http://www.musicology- japan.org/activity/activity_ main.html
東洋音楽学会 第 68 回大会	2017/11/11-12	沖縄県立芸術大学	http://tog.a.la9.jp/meeting. html
日本ダルクローズ音楽教育学会 第 17 回研究大会	2017/11/12	東京家政大学 板橋キャンパス	http://eurhythmic.jp/ kiseki.html
第 15 回世界音楽療法大会	2017/7/4-8	つくば国際会議場	http://www.wcmt2017.com/
Asia-Pacific Symposium for Music Education Research (APSMER 2017)	2017/7/19-21	Hatten Hotel Melaka	https://www.apsmer2017. com/
3rd International Conference of Dalcroze Studies	2017/7/30-8/3	Université Laval Quebec City Canada	https://www.dalcroze- studies.com/
23rd International Kodály Symposium & Music Festival	2017/8/8-13	Augustana Campus University of Alberta Camrose Alberta Canada	http://www. kodaysymposium2017. com/
6th Conference of the Asia-Pacific Society for the Cognitive Sciences of Music (APSCOM).	2017/8/25-27	京都女子大学	http://apscom2017.org/
International Computer Music Conference (ICMC2017)	2017/10/16-20	Shanghai Conservatory of Music	http://www. computermusic.org/ page/18/
NAfME Music Research and Teacher Education National Conference	2018/3/22-24	The Westin Peachtree Plaza Atlanta Georgia	http://www.nafme.org/ wp-content/files/2017/03/ Detailed-Call-for-Proposal- 2018-Biennial-FINAL- with-LOGO.docx.pdf

4 会員の声

1 心から楽しめる、身に付く音楽科教育を目指して

～「できた」「わかった」があふれる音楽との出会いを目指して～

後藤 俊哉（横浜市立さわの里小学校）

「今日の授業、子ども達の実感をもって演奏し、考える授業になっていましたか？『音が苦』になっていませんか？」授業研究会に参加する時、時々声をかける言葉である。子ども達は一生懸命「練習」をしている。子ども達のめあてには「間違えないようにする」と書かれている。子どもにとって「間違わずにできたこと」は喜びであるものの、「何を学んだか」は実感できているのだろうか。「子どもに身に付けたいこと」は明確だったのだろうか。

新学習指導要領では、学びの過程において「音や音楽との出会いを大切に、音楽活動を通して、音楽を形づくっている要素を聴き取り／知覚し、感じ取って／感受して、音楽的な特徴と、音楽によって喚起される自己のイメージや感情、音楽の背景などと関連付けること」を表現及び鑑賞の学習において共通に位置付けられている。

子ども達は直接音や音楽と出会い、感じ取り、「やってみよう！」と意欲がわき、実際に試してみる。なかなかいい音が出ない。「どうしたらいい音が出せるのだろう」と試行錯誤する。「主体的な学び」である。友達のリズムから学ぶ。「なるほど！そうか！こうするといい音になる！」、お互いに表現し合うことで高まっていく。「対話的で」「深い学び」となった瞬間である。

毎週行われる朝会では、いろいろな楽器を使って、いろいろな演奏の仕方でもいろいろな音が出せることを紹介する。「試してみたい子は校長室においで」というと、写真のように集まってくる。

「エナジーチャイム」では一人の音に、来た子どもたちの視線が集まる。一人ひとりの音の違いを感じ取り、「次はこう鳴らしてみよう！」「あっ！あの子の演奏の仕方おもしろい！まねしてみよう」と聞き方も「聞く」から「聴く」へと変化していく。友達の鳴らし方を見て「深い学び」となっていく。

「サウンドホース」では、一人の子が鳴らし始めると次々に重ねていく。これがおもしろい！スピードを下げると音が変わる。これもおもしろい！ホースのアンサンブルができている。その時に「どうして音が変わるのだろう」ということに気付くと、回すスピードに合わせて音が高くなったり低くなったりしていることに気付く。この経験は音楽だけでなく、理科の実験にもつながり、フルートやリコーダーや尺八の音が出るのも同じ原理というところに行き着く。筑波大学附属小学校の高倉弘光先生の言葉の中に「子どもの『！』や『？』」に注目して、授業で「子どもに身に付けたいこと」を明確にしておく。そのためには、「無意識を意識化させる」ための発問が大切としている。これからの音楽科教育を示唆する大切な言葉だと思う。



【写真1】エナジーチャイム



【写真2】サウンドホース

2 新入会員の声—子どもや学生との楽しい音楽の時間をつくりたい

細川 匡美 (明星大学通信制大学院後期課程)

音楽大学のピアノ専攻を卒業して以来、私は演奏活動や、幼児から成人までの様々な音楽指導に携わって参りました。6年前からは大学の非常勤講師として、保育士及び幼・小の教員養成に携わっております。経験的には、子どもであれ学生であれ、音楽の能力を無理なく楽しく伸ばさせる秘訣は同じであろうかと思えます。手の届く範囲の目標を設定し、「できた！」という達成感を共に喜びながら進むことです。しかし、教員等をめざす学生の専門性を上げるためには、自分の経験知だけに基く指導では不十分であることも痛感するようになりました。広く音楽教育・幼児教育を学ぶ必要を感じ、現在、通信制大学院で学んでおります。

研究テーマは、以前から自ら体験していた「リトミック」領域に関する事で、歴史的研究が中心ですが、指導方法についても勉強をしております。通信制大学院では、多様な研究領域の方と交流する機会もあり、自分の領域を広い視野から俯瞰できると同時に、きわめて小さな点から研究が広がり、新たな知見に至る楽しさも経験しています。会員の皆様の研究にも是非触れさせていただきたく、入会致しました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

3 新入会員の声—日本音楽教育学会に入会して

大津 真樹子 (仙台医健専門学校)

保育士不足、待機児童問題がますます注目を浴びているこの春、学内では新学科としてスタートしたばかりの「こども保育科」で教員をしています。3年制で保育士資格と幼稚園教諭第2種免許を取得します。私は学科の代表であり音楽全般の授業を受け持っています。

これまで童謡を中心とした幼児音楽、保育音楽、音楽表現を専門として、短大や専門学校での指導や演奏活動を続けてきましたが、縁あって仙台市内のこども園の園長を一年間つとめたことで、私の保育音楽観ががらりと変わりました。目の前で成長していく子どもたちを目の当たりにして、この子たちの感性や生きる力を育むために、音楽はいかに役割を果たすべきか、ゼロから考え直すきっかけとなりました。再び教員として保育者養成に携わることになり、保育現場で得た知見を盛り込むべく、音楽のテキストを自ら作成し試行錯誤しております。

このような状況において、隣接した領域で活躍なさっている全国の先生方の知見に接することは、何よりの刺激であり有意義な勉強の場であると考え、この度入会いたしました。「三つ子の魂百まで」と申しますが、生まれてまもない乳児や幼児が触れる音楽と音楽体験が、大人の創造を超えるほどの影響力を持つことを常に念頭に持ち、これからの保育者養成に取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



【写真】オーストラリアの中等学校でのMIDI学習

4 会員の新聞・近刊等紹介

★中山由美『うまい先生はこう教える！小学校音楽授業マネジメント（音楽科授業サポート BOOKS）』
明治図書出版 2015/9/17 A5 判・160 頁 ISBN-10:4181932117 [本体 1,960 円 + 税]
小学校全学年，及び特別支援学級の全 26 実践事例と 10 の Q & A が掲載され，子どもたちだけでなく，先生も音楽授業が楽しみになる「授業マネジメント」の考え方と実践を紹介している。

★阪井恵・酒井美恵子『音楽授業でアクティブ・ラーニング！子ども熱中の鑑賞タイム』
明治図書出版 2017/1/6 A5 判・128 頁 ISBN978-4-18-159820-4 [本体 2,060 円 + 税]
教科書掲載曲からアニメ主題歌まで多様な 50 曲を教材とした授業プラン集。1 曲ごとに解説や学び方・楽しみ方の例を示し，見開き 2 頁で構成している。第 1 章では学級担任の先生向けに，基礎知識を解説した。

★小畑千尋『さらば！オンチ・コンプレックス ユキ & ケンと一緒に学ぼう！〈OBATA METHOD〉によるオンチ克服指導法』
教育芸術社 2017/1/27 A5 版・160 頁 ISBN 978-4-87788-783-4 [本体 1,300 円 + 税]
歌いながら音程を認知する「内的フィードバック」能力を高め，オンチ克服に導く方法を，イラストとマンガでわかりやすく解説している。歌の指導の際に役立つ一冊である。

★関口博子『近代スイス・ドイツの音楽基礎教育と歌唱活動』
現代図書 2017/2/13 A5 版・194 頁 ISBN 978-4-434-22490-4 [本体 5,556 円 + 税]
本書は，近代（18 世紀後半～20 世紀初頭）のスイスおよびドイツにおける音楽基礎教育と民衆の歌唱活動について，特にペスタロッチ主義による学校音楽教育の改革と合唱運動に焦点を当てた研究である。

★山中文『音楽科における教育内容論の成立と展開に関する研究—授業構成の方法との関連を視野に入れて—』風間書房 2017/2/20 A5 版・265 頁 ISBN 978-4-7599-2168-7 [本体 8,000 円 + 税]
音楽科における教育内容論の成立と展開を，授業構成との関連から総括した。さらに，音楽教育界における近年の新しい言説や，積み残された教育内容研究の課題を踏まえ，今後の教育内容研究を展望した。

★藤井浩基『日韓音楽教育関係史研究—日本人の韓国・朝鮮表象と音楽—』
勉誠出版 2017/2/28 A5 版・336 頁 ISBN978-4-585-27040-9 [本体 7,500 円 + 税]
20 世紀前半の日韓関係史を音楽教育という視点から読み解く。教育・文化政策はもとより，日韓を取り巻く政治，外交等の最前線でも，音楽教育が重要な役割を担ってきたことを多角的に解き明かす。

「ニュースレターは会員のホットな情報交換の場」の方針の下，この頁ではみなさまからの投稿をお待ちします。書籍の他，CD，DVD などのリリースもお寄せ下さい。書誌情報，基本的な音源情報に加えて「である調」90 字程度の紹介文をお願いします。

投稿先アドレス (半角で) onkyouiku.kouhou@gmail.com

5 報 告

1 平成 29 年度第 1 回常任理事会

日 時：2017 年 5 月 14 日 (日)14:00-15:00

場 所：立教大学 12 号館 第 4 会議室

出席者：小川, 今川, 権藤, 今田, 奥, 加藤, 島崎, 菅, 杉江 (記録), 坪能, 寺田, 三村
開会に先立ち小川会長より挨拶があり, 理事会と重複する事項は割愛して報告・審議された。

【審議事項】

1. 第 48 回大会について

- ・坪能企画担当理事より, 愛知教育大学の会場視察および打ち合わせを行ったことの報告があった。
- ・会員の大会参加費について, 権藤事務局長より提案があり, 審議の上以下のように承認された。
一般会員：事前申込 4,000 円, 当日申込 4,500 円, 学生会員：1,000 円
- ・ポスター発表は, 応募を締め切ってから, 発表数等に応じてポスター作成要領および責任在席時間等についての詳細を決定し, 7 月初旬頃に通知することとなった。基本原則として, ポスターは A0 サイズ, 筆頭発表者の責任在席時間は 30-50 分程度とすることが提案され, 承認された。
- ・プロジェクト研究について, 今田理事から, 若手研究者を中心としたプロジェクト研究 (第 2 年次) として, 研究種別による企画とパネリストの人選が提案された。坪能理事からは, 新企画 (第 1 年次) 「学校と社会を結ぶ音楽教育—協働的な学びを探る—」 (仮題) の内容が提案され, 承認された。なお, パネリスト等の人選およびプロジェクトの趣旨 (要旨) については, 常任理事会メール会議にて承認を経た上で, 大会プログラムに掲載されることとなった。
- ・韓国音楽教育学会への発表応募案内について, 今田理事および権藤事務局長より, 韓国音楽教育学会会員に向けた本学会ウェブサイト上の英文案内掲載が提案され, 承認された。

2. 規定の改正について (加藤総務担当理事)

「大会の発表等に関する内規」について, ポスター発表を導入することに伴う改正案が資料をもとに提案され, 審議の上, 一部修正をして承認された。

II 会員の資格等の内規の一部改正

改 正	現 行
1. 大会において口頭発表, <u>ポスター発表, 共同企画を希望する正会員・特別会員は, 筆頭 (代表者)・連名にかかわらず 5 月末日以前に当該年度までの会費を納入し, 所定の期日までに発表申込を完了しておかなくてはならない。</u>	1. 大会において口頭発表, 共同企画を希望する正会員・特別会員は, 5 月末日以前に当該年度までの会費を納入し, 所定の期日までに発表申込を完了しておかなくてはならない。
2. 同一大会において口頭発表, <u>ポスター発表の筆頭発表者 (代表者) となれるのはいずれか 1 件のみとする。共同企画で筆頭発表者となれるのも 1 件のみとする。なお, 筆頭 (代表者)・連名にかかわらず, 1 人が発表できる件数は口頭発表とポスター発表, および共同企画をあわせて 2 件を上限とする。</u>	2. 同一大会において口頭発表, <u>共同企画それぞれ筆頭発表者 (代表者) となれるのは 1 件のみとする。また, 筆頭 (代表者)・連名にかかわらず, 1 人が発表できる件数は口頭発表と共同企画をあわせて 2 件を上限とする。なお, 口頭発表の場合, 1 名を上限として非会員が連名発表者になることができる。ただし, 非会員の連名発表者は 当日臨時会員となって発表会場に同席することが望ましい。</u>
3. <u>口頭発表, ポスター発表の場合, 1 名を上限として非会員が連名発表者になることができる。ただし, 非会員の連名発表者は当日臨時会員となって発表会場に同席することが望ましい。</u>	[新設]
4. <u>共同企画における発表者は, 代表者を含む 2 名以上が正会員・特別会員・名誉会員であることとする。このほかに, 複数の非会員が連名発表者となることができる。</u>	3. 共同企画における発表者は, 代表者を含む 2 名以上が, 5 月末日以前に当該年度までの会費を納入した正会員・名誉会員であることとする。このほかに, 複数の非会員

5. (略)	が連名発表者となることのできる。
6. (略)	4. (略)
7. 院生フォーラムの発表者は、正会員・特別会員の大学院生に限る。発表に先立ち、大会開催当日までに当該年度までの会費を納入し、大会参加費を納入すること。	5. (略)
8. 大会参加費は、名誉会員、賛助会員、5および6に該当する非会員を除き、すべての大会参加者が納入する。院生フォーラムの参観のみの場合も同様である。なお、金額は、会員 / 非会員、前納 / 当日納入の別により、別途定める。	6. 院生フォーラム (ポスター発表) 院生フォーラム (ポスター発表) の発表者は、正会員に限る。発表に先立ち、大会開催当日までに当該年度までの会費を納入し、大会参加費を納入すること。
附則 この内規は、平成 29 年 5 月 14 日から実施する。	7. 大会参加費は、名誉会員、賛助会員、4および5に該当する非会員を除き、すべての大会参加者が納入する。院生フォーラムの参観のみの場合も同様である。なお、金額は、会員 / 非会員、前納 / 当日納入の別により、別途定める。 附則 この内規は、平成 28 年 10 月 8 日から実施する。

※次回会議の予定

第 2 回常任理事会 7 月 17 日 (月) 14:00-16:00 於 キャンパス・イノベーションセンター東京

2 平成 29 年度第 1 回理事会

日時：2017 年 5 月 14 日 (日) 15:00-17:10

場所：立教大学 12 号館 第 4 会議室

出席：小川、今川、権藤、今田、奥、加藤、菅 (裕)、島崎、杉江、坪能、寺田、三村、有本、菅 (道)、木村 (充)、後藤 (記録)、新山王、嶋田 (監査報告の部分)

【会務報告】(2017 年 2 月 20 日以降)

3 月 18 日 ニュースレター第 67 号 発行	4 月 16 日 平成 28 年度会計監査会 (事務局)
3 月 22 日 J-STAGE への学会誌登載開始	5 月 14 日 平成 29 年度第 1 回編集委員会 (立教大学)
3 月 31 日 『音楽教育学』第 46 巻第 2 号発行	5 月 14 日 第 1 回設立 50 周年記念出版準備委員会開催(〃)
3 月 31 日 平成 28 年度会計決算	5 月 14 日 平成 29 年度第 1 回常任理事会・第 1 回理事会(〃)

【審議事項】

1. 平成 28 年度決算報告及び監査報告 (島崎・寺田・嶋田)

島崎会計担当理事より会計報告が行われた。また、嶋田会計監事より 4 月 16 日の会計監査会において適正な会計処理が確認されたとの報告があり、承認された。

2. 平成 29 年度事業計画及び補正予算について (権藤・島崎・寺田)

事業計画案、及び補正予算案について説明があり、資料の一部訂正も含め、承認された。

3. 平成 30 年度事業計画及び予算について (権藤・島崎・寺田)

平成 30 年度事業計画及び同予算案についての説明があり、原案通り承認された。

4. 第 48 回大会について (報告も含む)

・タイムスケジュールについて、坪能・今田企画担当理事より、複数の企画の同時進行にならないように調整をした旨の説明があり、原案通り承認された。

・新山王大会実行委員長から、施設使用料の減免申請が認められたこと、会場と教室について、院生フォーラムについて、当日の交通について等の説明が行われ、以下の点が確認された。

(1) 臨時会員の参加費は、2 日で 4,500 円、1 日 2,500 円とする。

(2) ポスター発表については、教室の壁面、ボードを中心に、発表数に応じて廊下も活用する。

(3) 院生フォーラムには当日の参加も認めるが、発表者は 9 月末までに入会手続きを完了しておく。

- ・常任理事会企画について、坪能・今田企画担当理事から以下の計画が報告された。
プロジェクト研究Ⅰ：若手研究者による第2年次として、分野別の提案を行う。登壇予定者は、
質的研究：甲斐万里子、量的研究：高橋潤子、歴史研究：塚原健太、哲学研究：千葉修平の各会員。
プロジェクト研究Ⅱ：「学校と社会を結ぶ音楽教育―協働的な学びを探る―」（仮称）では、
熊倉純子氏（東京藝術大学）他を予定。
- ・韓国音楽教育学会（KMES: Dae Chang Ju 会長）との交流の継続として、5月1日に会長名で愛
知大会の案内をした。今後は、学会ホームページ上に KMES 会員向けの発表案内を掲載する。
- ・発表申込および大会参加申込等の準備状況について、榎藤事務局長より説明があった。
- 5. 第8回夏季ワークショップについて（榎藤・木村）
開催地の協力を得て計画が整い、参加費、開催要領等の案が示され、承認された。
- 6. 設立50周年記念出版について（準備委員長：加藤）
第1回の対面会議を開催し、互選により加藤富美子委員を委員長に選出したことが報告された。
会員に協力を呼びかけたところ、22名の応募があった。応募者の選考および役割については委員
会に一任することが了承された。今後、第50回大会に間に合わせるべく編集作業に取り掛かる。
- 7. 規定の改正について（加藤）
「大会の発表等に関する内規」を常任理事会で審議・改正したことが報告され、了承された。
- 8. 学会賞について（小川）
本日5月14日に選考委員会を開催し、2015年度、2016年度発行の学会誌に掲載された13本
の論文を対象として、第5回学会賞受賞者に以下の2氏を選んだ。各5万円の賞金を授与する。
 - ・榎下達也会員 対象論文：「戦後日本における教育用楽器の生産、普及、品質保証施策―文部・商工（通
産）・大蔵各省と楽器産業界の動向を中心に―」（『音楽教育学』第45巻第2号）
 - ・清水稔会員 対象論文：「学校教育で音楽をつくることの再認識―音楽は自己のイメージから生成
しない―」（『音楽教育学』第46巻第2号）
- 9. 平成29年度参事の委嘱について（榎藤）
次の4名が、理事会後のML会議での追認も含め参事として推薦され、委嘱されることとなった。
長山弘（広島大学大学院教育学研究科博士課程後期院生）・高橋憲人、前田一明（以上、弘前大学
大学院地域社会研究科後期博士課程院生）、金崎惣一（弘前大学大学院教育学研究科院生）
- 10. 育志賞の推薦について（小川）
日本学術振興会からの育志賞受賞候補者の推薦について報告され、依頼された。
- 11. 名誉会員について（小川）
名誉会員の本年度推薦の該当者なしとすることが提案され、承認された。
- 12. 新入会員及び退会者について（榎藤）
2017年2月19日以降の新入会員及び退会者について報告され、承認された。

個人情報につき削除しています。

2017年5月8日現在 正会員総数1,554名 学生会員2名 名誉会員3名 特別会員2名

【報告事項】

1. 各委員会等報告

1) 編集委員会（有本）

2月15日の投稿締め切りには『音楽教育学』に5本（研究論文3，論考1，研究動向1），『音楽教育実践ジャーナル』に9本の投稿があった。5月14日11時より開催された委員会では，その採否の決定を含め，審議の報告を行った（採否の詳細は，p.5の「編集委員会からのお知らせ」を参照）。次号の『音楽教育学』には，順調にいけば最大6本の論文が掲載できる可能性がある。また，3月より『音楽教育学』『ジャーナル』のJ-STAGEへの公開が開始された。引き続きプレビューチェックを行っており，順次公開の予定である。

2) 広報委員会（奥）

ニュースレターNo.68の内容について説明があった。

3) 選挙管理委員会（高橋→権藤）

6月中旬発送，7月3日の締切に向け，ニュースレター等を通じて会員の投票を呼び掛けている。

4) 音楽文献目録委員会（木間→権藤）

国際音楽学会東京大会におけるRILM Meeting（3/20於：東京藝術大学），新刊の発行，財務状況，第171回音楽文献目録委員会が出された課題等について報告がなされた。

2. 教育関連学会連絡協議会報告（小川）

3月18日学習院大学で開催された協議会について報告された。内容は，①人文科学の危機と各学会からの発信，②人文社会系大学の研究費確保，③地方大学における自治体との連携強化並びに教育学系大学の新しい枠組み模索の3点である。

3. 「教育勅語の教材使用問題に関する緊急対応プロジェクト」に関する意見交換会報告（有本）

日本教育学会で緊急対応プロジェクトが立ち上げられた。現時点での日本教育学会の対応として(1)この問題に対処するWGを設置する。(2)6月半ば頃までに諸学会会長共同声明を作成し発表する。(3)8月頃までに「教育勅語の使用容認問題に関する研究報告書」（仮称）を作成し公表する。(4)シンポジウムの開催等が挙げられている。当学会の対応について理事会MLで広く意見を聴取したい。

4. 例会報告（寺田・今田・木村（充）・後藤・新山王・菅（道）・三村・菅（裕））

各地区から各地で実施した例会の報告が行われた。

5. 事務局体制と今後の運営について（権藤）

事務局員の交代に伴う今後の運営について報告があった。

※次回会議の予定：第2回理事会 10月20日（金）時間未定 於：愛知教育大学

6 事務局より

事務局長 権藤 敦子

1) 第48回大会(愛知大会)事前申込について

正会員・特別会員用事前申込 (https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/48ongaku_aichi/) は9月22日(金)が締切です。大会、懇親会の参加申込、および、弁当、宿泊の予約もできます。弁当は会員一人が複数個申し込むことも可能です。宿泊については、数に限りがありますのでお早目にお申込みください。

正会員・特別会員参加費：4,000円(当日払いの場合 4,500円)

学生会員(学部生)参加費：1,000円(事前申込はありません。会場で受け付けます。)

懇親会費：4,000円

日替わり弁当お茶付：1,000円

なお、大会についての情報は、学会のウェブサイト(日本音楽教育学会>イベント案内>大会のお知らせ)で逐次お知らせしますので、そちらでご確認ください。

2) 会費納入確認メールについて

会費納入を事務局で確認しましたら、自動送信メールでその旨皆様にお知らせしています。郵便局から通知が届き(数日かかります)、事務局で確認作業を行うまでに、業務の都合上、時間をいただくこともあります。2週間以上経っても会費納入についてのメールが届かない場合、あるいは、ご不明な点がある場合には、お手数ですが事務局までご一報ください。

3) 学会誌バックナンバー販売について

好評につき引き続き特別価格で販売しております。詳しくはウェブサイト(日本音楽教育学会>学会誌・出版物)をご覧ください。

4) 事務局員の交代について

亀山さやかさん、若尾裕子さんに、今年度も引き続き事務局の業務を支えていただいています。なお、これまでお世話になった中村幸子さんが都合により昨年度末で退職され、長島共秀さんが4月からお手伝いくださっています。どうぞよろしく願います。

【編集後記】

本誌の原稿が集まり始めた5月初旬。菜の花を見に野沢温泉村に出かけてきました。光り輝くような花の美しさと空の青さに感動していたら、だんだんと空が赤く染まり…まさに《おぼろ月夜》の世界を目の当たりにしたひと時でした。夏はまた違った景色を見せてもらえるのではないかと楽しみにしているところです。

さて、本誌の音楽教育の窓には、多方面から乳幼児について研究していらっしゃる志村洋子氏にご寄稿いただきました。そのほかたくさんの方々にご協力いただき、バラエティ豊かな誌面となっております。今後もタイムリーな情報をお届けすると同時に、会員の皆様の交流の場となるよう、委員一同努めていきたいと思っております。皆様からのお声ご投稿、広報委員一同お待ちしております。

(村上 康子)

投稿先アドレス(半角で) onkyoiku.kouhou@gmail.com

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

TEL & FAX：042-381-3562 E-mail：(半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私 書 箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日時：月・水・木 9:00～15:00

事務局員：亀山さやか・若尾裕子・長島共秀